11/16 「令和 8 年度経営実調結果」について

・(11/20 の内容となる「経営情報 DB の整備化と情報公表制度のより一層の充実化」の期待と合わせて)報酬改定の議論において、「収支差額・収支差率」を一つの中心的な柱として改定を検討することは、今後も妥当であると思います。もちろん、別の有効な改定の手法・プロセスを模索することにも気を配りながらも、「収支差額・収支差率」を手掛かりとして議論を進めていくことは最良であろうと判断しています。よって、今回の調査結果を真摯に受け止める中で、議論に参加したいと思います。

・全体としては収益性は確保されているものの、前回調査に比して収支差率が低下しています。それを鑑みると、今回の改定では今後は収支差額・比率が微増するよう考慮する必要があろうとの第一印象です。

・赤字事業所の割合が全体感減少した印象があります。前改定のプラス効果と事業所の経営努力と思います。その中で、今後は赤字の事業所にどう経営改善をアプローチしていくかは議論する必要があろうと思います。また同様に、黒字ではあるが・赤字になりそうな事業所にアラートを早期に促して、リスクを軽減する仕組みを検討することも一案と思います。いずれの場合にも基本は事業所の自主性によるところですが、省や自治体がさまざまにサポートする手立てを今後調査研究し議論していただきたく存じます。障害福祉サービス事業の持続可能性に必須の課題と思います。

・また、「処遇改善の状況」についても説明がありました。制度がありながら申請できなかった理由が複数例示されたと思います。どうしたらその理由を克服できるのかを分析し、検討する必要があるかもしれません。AI 活用などがその一助となるやとも思います。いわゆる、事業者の困りごと・悩み事の底をさらって、これまで以上に手厚い・事業所への面倒見をよくする仕組みになるようなベクトルに進むとよいと思います。

11/20 「横断的事項　サービスの質の確保」について

・(過去の改定議論に比して)今回改定で対応を迫られている事項と考えています。チーム会議の中で、「より厳格な措置を」と意見したこともありました。

ただ、論点の 8 つにつき、今後の方向性は是認いたします。関連する議論の中で、「強化」的な文言が強い印象を受け、省として問題を受け止め、対応していく姿勢が読み取れました。もちろん、「不正・制度悪用する者は退場」との思いもありますが、今後とも「継続して検討する」という提案もされており、一定の効果が得られることを期待しております。

　その意味では、内部的にはガバナンスの確立、外部からは指導・監視の再検討など、不適切な行動について、内部・外部の多くの目線で見逃さない・見過ごさないようにすることが必要と思います。

・最後になりますが、情報公表制度(論点 7)の方向性は賛成です。障害福祉サービス(経営)は制度枠の中で多くが成り立つ仕組みです。その仕組みの中で、事業されるからには当然の、前提的方向性です。もちろん、さまざまな事情があることも理解しています。資料にもありますように、円滑に進めていくとの記述もありますので、ぜひ協力をお願いしたいと思います。論点 7 には経営情報の見える化、経営情報のデータベースの整備と、改定議論の柱となる経営実態調査の充実さや精緻さへの考慮がなされています。加速化をお願いしたいところです。